

常日頃、私たちの活動にご理解、ご協力くださり、心から感謝いたします。

2022年6月現在、新型コロナウイルス感染症は、ワクチン普及によって収束の方向に向かっているかのような感があります。その一方、数年にわたるコロナ禍の影響で、多くの企業が業務縮小や倒産せざるを得ないという厳しい現実があります。今後、ますます資金繰りに行き詰まる中小企業や個人商店が増加していくのではないかと危惧します。

そのような状況下、不安定就労や不安定住居など、これまで企業の安全弁として働いてきた人たちが真っ先に失職し、路上生活を余儀なくなれるという現実を、支援活動の現場で目の当たりにしています。手配師の口利きで野宿をしながら毎日異なる現場で仕事をしている人たち、ネットカフェで寝泊まりしながら派遣先でラインの仕事をしている人たち、学卒以来ずっと寮付き建設現場で働いている人たち、彼ら彼女らからの緊急相談が殺到しています。

直近に実施した路上生活者へのアンケート調査でも、新型コロナウイルス感染症の影響で仕事を失った人、失職に伴い住まいをも失った人、一日一回やっと食事ができるという人、体調に不安があるにも関わらず職と住まいが先決で結果取り返しのつかない重篤な病気になってしまった人、が、数多くいらっしゃいました。それらは、特殊な人たちの事情でなく、「いつ」、「誰が」、「どこで」、そのような苦境に陥ってしまうかわからない不安な時代に、「私」自身も生きていることの証左だと痛感させられています。

この間、「不要不急」の外出自粛が叫ばれる中、私たちは、「生活困窮者支援は命に関わる急を要する必要不可欠な活動」と位置づけ、今日の食を提供し、緊急相談への対応を中止することなく継続してきました。

社会状況の変化によって苦境に陥ったとしても、何度でもやり直しのできる豊かなセイフティーネット構築を目指し、路上生活、生活困窮を余儀なくされている人たちの窮状に寄り添い、顔と名前が一致するような出会いと関係を構築し、一人ひとりが抱えている具体的な課題に届いていくべく、支援活動、政策提言を、今後とも継続していく所存です。

どうか、私たちの活動を覚えてくださり、これからもご理解、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。